

DX-Eさが

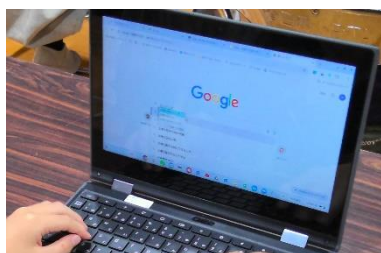
Vol.5
2025.10.17

主体的・対話的で深い学びの実現には1人1台端末の活用が不可欠

「端末を効果的に活用したいけれど、どう使えばいいのか…」とお悩みではありませんか？今回は、授業場面ごとの活用方法をいくつかご紹介します。ぜひ、授業づくりの参考にしてみてください。

自分で調べる場面での活用

インターネット検索で瞬時に詳しい情報を調べることができます。必要な情報を選び取る力が求められます。英語のデジタル教科書で発音を調べることも、この場面での活用にあたります。



インターネット検索で必要な情報を調べる。



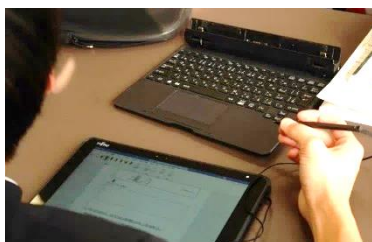
教師が準備したクラウド上のフォルダやドライブにアクセスする。



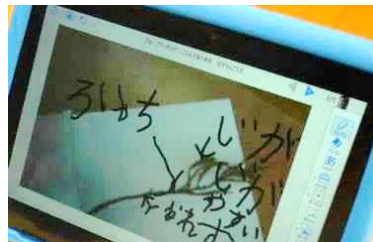
英語のデジタル教科書から発音を調べる。

自分の考えをまとめ発表・表現する場面での活用

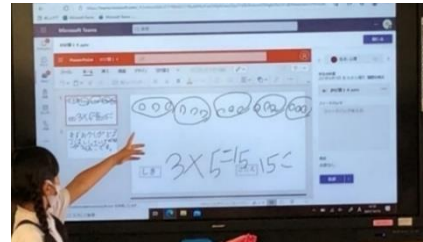
プレゼンテーションソフト、文書ソフト、ホワイトボードソフト、メモ機能などを使うことで、自分の考えを整理し、簡単に保存することができます。写真に気づきを書き込み、グループ内で発表（紹介）することも、この場面での活用に該当します。



デジタルワークシートに考えを書き込む。



画像に自分の考えを書き込む。



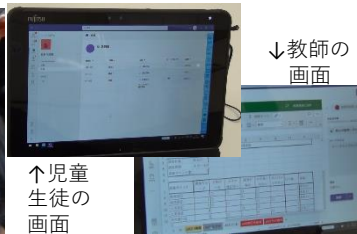
自分の考えを電子黒板に表示し、全体で共有する。

教職員と児童生徒がやりとりする場面での活用

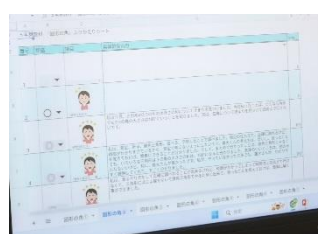
課題の提出、資料の配付、アンケートの実施などが容易に行えます。また、教師の画面を児童生徒に提示したり、児童生徒の画面を教師が確認したりする場面も、やりとりの一環としてICT活用に含まれます。



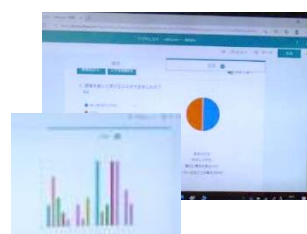
自分の考えを教師に確認する。



資料のやり取りや課題の提出をする。



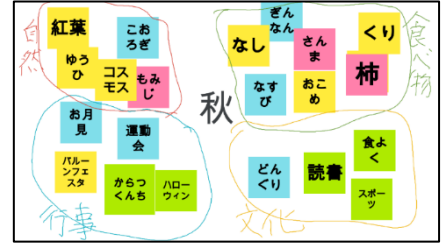
振り返りを共有して確認する。



集計結果をすぐに確認する。

児童生徒同士がやりとりする場面での活用

グループやペアでの話し合いにおいて、撮影した写真や資料を共有することで、相手の理解を深めることができます。考えの整理や分類にも有効です。ネットワークがない環境でも、端末を見せ合うことで活発な話し合いにつながります。



カメラで撮った動画を見てグループ内で気づきを出し合う。

自分の考えについて端末を使って示しながら、互いに説明し合う。

グループ内の多様な考えを整理したり、分類したりする。

特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での活用

同じ授業内でも、理解度に応じて自分のペースで学習を進めることで、学習内容の定着が促され、学びの質の向上につながります。また、文字の拡大表示やルビの付与など、個々の特性に応じた支援を行うことで、個別最適な学びの実現が可能となります。



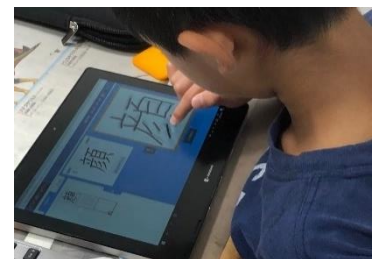
ドリル教材で理解度に合わせて課題に取り組む。

それぞれに合った学習方法を選択する。

理解度や進度に合わせて誰と学ぶかを自分自身が決める。

家庭での活用

オンライン授業やドリルソフトの活用だけでなく、授業中の写真や動画を振り返って気づきをまとめたり、家庭で録音した音読を提出したりするなど、端末の活用が広がっています。連絡ノート、時間割、学校通信、健康観察などをデジタル化している学校もあります。



体育で録画した動きを家の人に見せる。

手本動画をみてダンスの練習し、技能を高める。

デジタルドリルで基礎的な知識の定着を図る。

「SAGA Eコネクト」ではたくさんの事例を紹介しています。 →

<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

「先生たちの広場」ID:

PW:

